

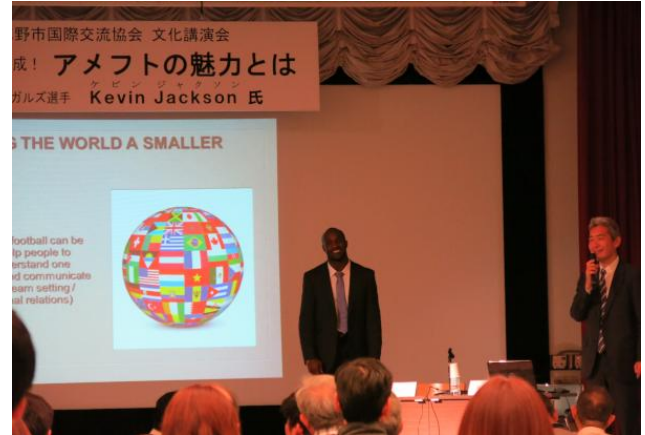
文化講演会”アメフトの魅力とは”が開催されました 自分ができるところを活かす！人生に似ている

講師 ケビン・ジャクソンさん（オービックシーガルズ選手）

文化講演会が3月29日（土）にモリシア多目的ホールで開催されました。今回は習志野市に本拠地を置くアメリカンフットボールのチーム、オービックシーガルズの選手、ケビン・ジャクソンさんが講師でした。

オービックシーガルズは1月にライスボウルで4連覇を果たした、堂々日本一のチームです。ジャクソンさんはその主力選手。来日9年で日本にもすっかり馴染み、この日も英語を交えながら、なめらかな日本語で話をしてくださいました。あわせて今回、チームの取締役の渡部滋之さんにもジャクソンさんの話を補足しながらしっかりサポートをしていただきました。

オービックシーガルズやアメフトの熱心な



ケビン・ジャクソンさん(中央)と渡部滋之さん(右端)

ファンを始め、子どもや3人の外国人も含む75人の聴衆が、質問も交えながら熱心に耳を傾けていました。

以下、ケビン・ジャクソンさんの話の概要です。

みなさんこんにちは。ケビン・ジャクソンです。

このような大勢の前で話すのは初めてです。緊張しています。

今日はアメフトの魅力について私が思うことをお話したいと思います。

*

私は来月で来日9年になります。7歳からアメフトをやっています。アメフトのない人生はわかりません。

アメフトはルールが難しいとよくいわれます。大きい男がただ走りまわって、ぶつかりあっているように見えますが、結構細かい作業をしています。

攻撃側11人、守備側11人でゲームを行います。フォーメーションに従って、守備側が攻撃側の誰にぶつかっていくかそれぞれ全部決まっています。それを1回1回のプレーで行います。サッカーのセットプレーを繰り返しているようなものです。

1回ごとの作戦はコーチが考えて指示を出しますが、選手は攻撃のパターンやディフェンスの作戦をみんな覚えています。ディフェンスは1試合に30ぐらいのパターンを持っていて、ベースのパターンがさらに相手の動きによって変わります。一方のチームの攻撃の回数は1試合に60回から90回くらいですが、準備はその3~4倍はしておきます。頭に入れておくのです。しかもアメフトは交代が自由ですから、チーム全員がそれをする必要があります。高いレベルのチームワークが必要で、ひとりひとりが自分の役割をきちんと果たして仕事をしないとゲームが進まないのです。

*

アメフトはチームスポーツで、ひとりだけうまい選手がいてもダメです。みんなが自分の役割を果たさなくてはなりません。チームには大きい人も小さい人もいます。力強い人、足が速い人もいます。アメフトの特長は、身

体の大きさが違う人が同じスポーツができることです。実は私は高校時代、身長が193cmあってバスケットボールの選手を目指していましたが、背が低くてダメと言われました。

(笑) 今、オービック・シーガルズには身長が161cmの選手がいます。その選手はぶつかり合いよりボールを持って走るランニングバックというポジションですが、アメフトはそれでもできるのです。それぞれ自分ができることを活かすスポーツです。人生に似ていますね。

そして面白いことに、ポジションによって人の性格が現れるのです。仲の良い穏やかな人ばかりのポジション、一匹狼の人ばかりのポジション、騒々しい人ばかりのポジション、いろいろです。例えば、オフェンスラインの人はみんな仲がよく一緒に行動します。マジメでチームワークを大事にするタイプです。アメリカでは結婚相手にいいと言われます。

(笑) 反対にディフェンスラインの人はバラバラです。それはオフェンスは決まり事が多いことに対して、ディフェンスはアグレッシブで、場合によってはサインを無視してでも本能的に動くポジションだからだと思います。さらに日本でもアメリカでも同じポジションの人は性格が一緒というのも面白いですね。

アメフトは、ぶつかり合いが好きな人がやっているのですが、思い切り相手にぶつかります。それはスカッとします。また決まったルールの中ですが、相手をブロックしたりタックルしたりしていいスポーツです。普段の生活の中で出来ないことができるのです。日常からエスケープ、つまり脱出できる。それはとても楽しいことです。私がアメフトを好きな理由のひとつです。

*

アメフトではゲームのほかにもいろいろなことが行われます。

アメリカ人はアメフトが大好きですが、全部の人ではありません。タスカルーサにあるアラバマ大学のスタジアムは10万人入るといわれています。タスカルーサの市民全員が

入る大きさです。10万人ぐらい集まるのですが、実は本当に1つ1つのプレイを見たくて行っている人はその中で3~4万人ぐらいではないかと思います。それより地元のお祭りとして楽しむ人が多いのです。チアリーディングやマーチングバンドを楽しみにしたり、バーベキューなども朝からやっています。アメフトはついでのようにも見えます。子どもの時から休みに連れて行ってもらうぐらい、アメフトは文化に根付いているのです。

アメフト最大のイベントであるスーパーボウルなどでは、みなさんそれにあわせてスケジュールを作ります。いつもの日曜日の礼拝を無視して試合を見る人も多いのです。そうでなくてもアメリカのプロの試合は昼の12時からですが、それはおじいさんが孫を連れて試合に行くのに、午前中は教会に行くからだ、という話を聞いたことがあります。

試合となると大変に盛り上がります。特にホームチームへの応援の歓声が大きいです。時には相手チームを妨害して、話ができないようにすることもあります。ヨーロッパでもそうです。ブーイングが有名なのはフィラデルフィアで、負けると大ブーイングになります。それに比べると日本のファンはまだまだおとなしいですね。

*

競技を続けてきて思うことは、アメフトはまだ北米中心で、サッカーやバスケットボールに比べてまだ限られた地域で行われていますが、もっとグローバルに広がってほしいと思います。広がればもっと人と人を近づけることができるでしょう。

私たちオービックシーガルズは、力をつけてきているのは確かですが、世界の中でどのくらいのレベルにあるのか知りたいと思っています。去年ドイツ遠征して勝つことができましたが、アメリカははるかにレベルが高いです。プロのNFL(ナショナル・フットボール・リーグ)は32チームですが、私たちは現時点ではかなわないです。その下のカレッジフットボールのNCAA(全米大学体育協会)

はディビジョン1で125チームありますが、たぶんそれにも今は勝てないでしょう。でもアメリカへ行って試合をしたいとチームのみんなと話をしています。今、日本の中では1番ですが、もっと世界の上のレベルに挑戦し

ていきたいと思います。

そのためにはみなさんの声援が選手の大きな励みになります。

本日はありがとうございました。